

微生物課

1. 微生物係

1) 試験検査業務

微生物係が平成5年度に実施した試験検査業務は、食品・環境・公害関係事業計画に基づく食品細菌検査、環境関係及び公害関係の細菌検査と、食中毒・苦情等の試験検査、その他一般依頼による各種細菌検査である。

当係の試験検査業務の検査件数を表1に示した。

表1 検査件数総括

区分	依頼別	計	行政依頼		一般依頼
			保健所	その他	
総計		4,281	3,364	905	12
食品	計	2,732	2,720		12
	食品 食中毒・苦情	1,971 761	1,959 761		12
環境	計	658	644	14	
	専用水道水	17	17		
	プール水	203	203		
	公衆浴場水	84	84		
	リネンサプライ等	69	69		
	ビル冷却水等	172	172		
	飲料水	99	99		
	その他	14		14*	
公害	計	891		891**	
	河川水	471		471	
	海水	111		111	
	海水浴場水	136		136	
	事業場排水	173		173	

\*都市整備局公園緑地部 \*\*環境局環境保全部

表2 平成5年度 環境、公害関係検査件数

区分	試料	検体数	検査項目								
			計	一般細菌数	大腸菌群	兼性大腸菌群	ブドウ球菌	官能検査	レジオネラ	病原大腸菌	その他
総計		1,535	2,048	292	1,214	136	69	69	172	92	4
環境	計	644	1,157	292	463		69	69	172	92	
	専用水道水	17	29	8	8						
	プール水	203	203		203						
	公衆浴場水	84	84		84						
	リネンサプライ等	69	276	69	69		69	69			
	ビル冷却水等	172	296	124					172		
	飲料水	99	269	91	99						79
公害	計	891	891		751	136					4
	河川水	471	471		467						4
	海水	111	111		111						
	海水浴場水	136	136			136					
	事業場排水	173	173		173						

(1) 食品細菌収去検査

平成5年度に当所において実施した食品細菌収去検査の件数等を表3に示した。

(2) 食中毒・苦情細菌検査

当所で検査した細菌性食中毒および有症苦情は52事例、無症苦情は5事例であり、計761件の検査件数であった(糞便及び吐物414, 患者由来菌株2, 食品145, ふきとり200)。

52事例の食中毒および有症苦情のうち、原因菌が特定できたものは16事例で、判明率30.8%であった。平成5年度も平成4年度に引き続き、サルモネラによるものが5件と最も多く、次いでカンピロバクター及び毒素原性大腸菌が各々3件、腸炎ビブリオ及びウェルシュ菌が各々2件、黄色ブドウ球菌が1件の順であった。

細菌性食中毒発生状況(厚生省報告例)を表4に示した。なお、検査依頼があった食中毒・有症苦情の細菌検査結果を表6に、無症苦情の細菌検査を表7に記載した。

(3) 環境・公害関係細菌検査

保健所依頼のプール、公衆浴場、専用水道、おしぼり等(リネン関係)、環境局環境保全部依頼の海水浴場、河川、海水、事業場排水等の細菌検査を表2に示した。

(4) 一般依頼検査(細菌検査分)

一般の食品等の依頼検査は表5に示すとおりである。

2) 検査以外の業務

(1) 調査研究

生食用鶏肉類、液卵およびその加工品におけるサルモネラ対策に関する調査研究を行った。その結果については、別冊の調査研究報告書を作成した。

(2) 研修指導

新任の食品衛生監視員(6名)及び環境衛生監視員(6名)に対し、細菌検査技術研修を例年のごとく実施した(食品衛生監視員:平成6年1月10日~1月14日、環境衛生監視員:平成6年2月28日~3月1日)。

また大型スーパーマーケット衛生検査室等の職員に対し技術指導、助言を行った。

(3) 情報収集・解析・提供

「病原微生物検出情報」に毎月データを報告するとともに、そのデータをコンピューターのファイルとして保存した。

表3 平成5年度 食品細菌収去検査件数

試料	検査項目											その他										
	検体数	計	一般細菌数	大腸菌群	大腸菌	サルモネラ	腸炎ビブリオ	アドウ球菌	エルシニア	カンピロバクター	ボツリヌス		リステリア	カビ	酵母	乳酸菌	総菌数	嫌気性菌	無菌試験	緑膿菌	腸球菌	抗生物質
生乳(原乳)	1,959	5,327	1,543	1,144	146	545	157	803	81	406	8	27	157	94	13	8	15	26	3	3	133	15
牛乳・飲料	8	24	62	62		4	4	4		4						8					4	
発酵乳・乳酸菌飲料	62	129	10	10											10			5				
バター・チーズ類	32	62	5	27											3						51	
生肉・ミンチ	406	1,113	161	16	33	355		110	81	355		27					5					
食肉製剤	49	191	49	16		44		44														
刺身類(鮮魚介類)	114	228	114	2	3		112															
生カキ類	3	6	3																			
養魚介類	10	20	29		2																10	
魚介加工品	29	60	71	29										49								
ウニ・めんたい	71	191	126	71																		
魚ねり製品	126	252	126	126				281														
肉当り調理	281	846	281	281		3		76														
肉当り	76	231	76	76		3																
惣菜	125	505	125	125		18		125					112									
和洋生菜	4	8	4	4																		
氷凍食品	35	70	35	35																		
冷凍食品	27	54	27	27	27																	
前未加熱	77	231	77	43	34			77														
前未加熱類	56	112	56	56																		
腐類	66	132	66	66				45														
イスクリーム	45	225	45	45										45								
漬物等	9	27	9	7	2			9														
野菜・果物	45	90	45	45																		
清涼飲料水	3	12	3	3																		
ミネラルウォーター	35	82	14	12																		
缶詰・レトルト・包装食品	108	303	22	19		108		20									21			3		15
鶏卵・液卵	8	16	16	16				47													60	
ハチミツ	1	1	1	1																	8	
納豆	18	36	18	18																		
飲料	10	20	10	10																		
真空包装食品	10	30	10	10				10														

表4 平成5年度 細菌性食中毒発生状況（厚生省報告例，原因菌不明分は除く）

No	発生年月日	摂食者数	患者数	死者数	推定原因食品	原因物質(型別)	その他
1	H5.5.10	180	7	0	会席料理	<i>Salmonella</i> Braenderup	海外旅行者
2	6.23	43	5	0	鶏料理	<i>Campylobacter jejuni</i>	
3	7.9	55	44	0	不明	腸管病原性大腸菌	
4	7.30	27	22	0	仕出し弁当	ウェルシュ菌	
5	8.6	21	20	0	仕出し弁当	ウェルシュ菌	
6	8.14	69	51	0	仕出し料理	腸炎ビブリオ (K56)	
7	8.21	260	36	0	冷やし中華	黄色ブドウ球菌 (Ⅷ, ET-A)	
8	9.5	不明	1	0	不明	<i>Salmonella</i> Thompson	
9	9.26	178	84	0	披露宴料理	<i>Salmonella</i> Typhimurium	
10	12.2	2<	2	0	不明	<i>Salmonella</i> Enteritidis	
11	H6.2.19	11	2	0	不明	NAG, <i>Plesiomonas</i> , <i>Aeromonas</i>	海外旅行者
12	2.24	8	1	0	不明	NAGビブリオ	海外旅行者

表5 平成5年度 一般依頼検査件数

試料	検体数	検査項目												
		計	一般細菌数	大腸菌群	大腸菌	サルモネラ	腸炎ビブリオ	ブドウ球菌	ウェルシュ菌	セレウス	エルシニア	カンピロバクター	カビ・酵母	乳酸菌
計	12	41	8	8		4	4	5	4	4		4		
惣菜	2	9	1	1		1	1	2	1	1		1		
生菓子	1	6				1	1	1	1	1		1		
調理ご飯	1	6				1	1	1	1	1		1		
牛乳	8	20	7	7		1	1	1	1	1		1		

表6 平成5年度食中毒・有症苦情検査結果

No	保健所	受付日	飲食店 または 個人経営	喫食 者数	発症 者数	潜伏時間	主 症 状	原因と疑わ れた食品	検 体 (数)	推定原因菌	そ の 他
1	中	4/2	飲食店	6	6	20~21時間	下腹部痛,軟便	不明	患者便(1)	毒素原性大腸菌 O15:H不明,ST産生	施設は宮崎県日向市
2	早,東 南,西	5/12	飲食店	17	7	12~14時間	下痢,発熱,吐気	懐石料理	患者便(6),従業員便(7) 拭き取り(12),残物(4)	S.Braenderup	従業員2名とまな板の拭き取り からもS.Braenderup検出
3	南,早	5/27	飲食店	60	23	12時間	下痢,発熱	カニコース料理	患者便(3)	S.Enteritidis	施設は札幌市
4	博	6/8	不 明	366	73	不明	下痢,発熱,嘔吐	不明	食品(5)	不明	県外の修学旅行生の嘔 吐下痢症
5	博	6/23	不 明	1	1	?	吐気,下痢	?	患者便(1)	不明	
6	博	6/25	不 明	350	190	不明	腹痛,発熱,下痢	不明	食品(6),拭き取り(4)		京都府の修学旅行生の 食中毒O44のEPECを 検出したとのこと
7	城	7/2	不 明	2	2	不明	下痢,腹痛	不明	患者便(2)	C.coli	
8	早	7/5	不 明	2	2	?	下痢,嘔吐,腹痛	?	患者便(1),残品(1) 参考食品(1)	S.Blockley	
9	中	7/9	酒 店	1	1	2時間	下痢	チーズカマボコ	参考食品(1)	不明	
10	早	7/5	飲食店 (鳥料理店)	4	3	72時間	下痢,腹痛	鳥コース料理	患者便(2),従業員便 (4),拭き取り(6),参 考食品(3),菌株(1)	C.jejuni	
11	南	7/20	不 明	2	1	?	下痢,嘔吐	?	患者便(1),拭き取り(8)	C.jejuni/coli	
12	南	7/21	旅 館	20	13	4.5時間~	腹痛,嘔吐	旅館の食事	患者便(1)		熊本県で発生,腸炎ビブ リオを検出したとのこと
13	東,西 早,南	7/21	飲食店	80	20	6時間	下痢,腹痛	仕出し弁当	患者便(6)	腸炎ビブリオK53	穂波町で発生分
14	南	7/30	スーパー マーケット	2	2	?	嘔吐,下痢	?	患者便(2),残品(3)	不明	
15	西	8/6	?	3	1	40分	下痢,腹痛	?	患者便(1)	不明	
16	博	7/30	飲食店	27	23	18時間	下痢(軟便) 腹痛	仕出し弁当	患者便(24),残品(5), 水(3)	ウェルシュ菌	
17	中,東 南	8/8	飲食店	28	18	9~19時間	下痢,腹痛	仕出し弁当	患者便(12),従業員便(8) 残品(2),拭き取り(8)	ウェルシュ菌	
18	西,東 中,南	7/31	旅 館	?	109	1~3日	水様下痢,嘔 吐,腹痛	?	患者便(7)	毒素原性大腸菌 (O169,H41,ST+)	STp遺伝子保有
19	西,早 城	8/14	飲食店	20<	21<	10時間~	下痢,腹痛,嘔吐	仕出し料理	患者便(21),従業員便(6) 残品(4),拭き取り(2)	腸炎ビブリオ (K56)	残品の刺身よりTDH+ の腸炎ビブリオ (K56)検出
20	東	8/21	老 人 ホーム	230	27	約4時間	嘔吐,下痢,腹痛	冷やし中華	患者便(17),吐物(3), 残品(4),参考食品(7) 拭き取り(24),水(2)	黄色ブドウ球菌 (コアグラゼⅧ 型,エンテロト キシンA産生)	残品の冷やし中華の具 から7.4×10 <sup>6</sup> CFU/g の黄色ブドウ球菌を検 出
21	南,早 城,中	8/31	ホテル	43	26	?	下痢,腹痛	?	患者便(8)	毒素原性大腸菌 (O169,H41,ST+)	STp遺伝子保有
22	東	9/13	スーパー マーケット	1	1	?	嘔吐	缶詰	患者便(1),残品(1) 不明		

No	保健所	受付日	食した場所 購入施設	喫食者数	発症者数	潜伏時間	主 症 伏	原因と疑われた食品	検 体 (数)	推定原因菌	そ の 他
23	西	9/14	飲食店 (寿司)	?	?	?	アレルギー症状	寿司	参考品(2)	不明	
24	早	9/27	食品店	2	2	2時間?	下痢	煮豆	残品(1)	不明	
25	東	9/27	スーパー マーケット	?	7	7~18時間	下痢,発熱	卵サンドイッチ	参考品(3),拭き取り(8) 従業員便(2)		原因施設は甘木市,市外の患者及び残品からS.Enteritidisを検出したとのこと
26	東	9/20	結婚披露 宴会場	108	33	20~50時間	下痢,発熱,腹痛	?	患者便(2)	不明	宮崎県で発生分(O6,O169,O25及びO115のEC,ST+を検出とのこと)
27	早	9/30	結婚披露 宴会場	?	15	?	下痢,腹痛	?	患者便(1)	不明	大阪府で発生分(O15,O25,O169の病原大腸菌を検出とのこと)
28	中,城 博,東 南	9/29	ホテル (結婚披露 宴会)	170	49	6時間~	下痢,発熱,腹痛	披露宴料理	患者便(15),従業員便(30),拭き取り(15),参考食品(6),菌株(1)	S.Typhimurium	
29	早	10/1	?	2	2	?	下痢,発熱,腹痛	?	患者便(1),残品(1),参考食品(1)	不明	
30	早	10/4	?	3	3	5~12時間	下痢,発熱	?	患者便(2),拭き取り(4),従業員便(4)	不明	
31	東	10/6	?	7	7	?	腹痛,下痢	ウィンナー ソーセージ	残品(1)	不明	
32	博	10/18	飲食店	2	2	30分	嘔吐	おにぎり	残品(2)	不明	
33	城	11/15	おみやげ 店	1	1	1.5時間	嘔吐,下痢	辛子しいたけ	残品(1)		
34	西,城	12/3	スーパー マーケット?	2	2	11時間?	下痢,発熱,腹痛	市販弁当?	患者便(2),従業員便(5) 拭き取り(3),参考食品(2)	S.Enteritidis	
35	東	12/7	弁当店	1	1	8時間?	下痢,発熱	おにぎり,おかず?	患者便(1),参考食品(3)	不明	
36	西	12/7	飲食店	4	4	30分~6時間	下痢,発熱,寒気 蕁麻疹	カニ料理	患者便(3),参考食品(3)	不明	
37	早	12/10	通販の 食品	2	2	3.5時間	嘔吐,悪寒,下痢	ツワの佃煮	患者便(2),残品(1) 参考食品(1)	不明	
38	中	12/14	ホテル?	57	11	12時間~?	嘔吐,下痢	披露宴料理?	患者便(3),従業員便(19) 拭き取り(6),参考食品(9) 残物(2)	不明	
39	早	12/14	飲食店	40	11	48時間	嘔吐,下痢	宴会料理 (和食)	患者便(7),従業員便(5) 拭き取り(11),残物(4)	不明	
40	早,西	12/20	飲食店	5	2	30分~12時間	嘔吐,腹痛	唐揚げ?	患者便(2),拭き取り(9) 残物(8)	不明	
41	博	1/6	デパート	1	1	3~4時間	下痢,嘔吐	クッキー	残物(1)	不明	
42	博,南 早,西	1/9	職員研 修所 (民間)	230<	60~ 70	不明	嘔吐,下痢	?	患者便(3),従業員便(63) 拭き取り(17),残物(10)	不明	下痢症ウイルスは不検出 (患者便4検体)
43	南	1/14	?	2	2	1~2時間?	下痢,吐気	ヨーグルト	患者便(1),参考品(1)	不明	

No	保健所	受付日	飲食店 購入数	喫食 者数	発症 者数	潜伏時間	主 症 状	原因と疑わ れた食品	検 体 (数)	推定原因菌	そ の 他
44	中	1/19	カキ業者 (広島)	3	3	3~30時間	下痢, 嘔吐, 腹痛	カキ	患者便(3), 残物(3)	不明	
45	中, 博	1/20	飲食店	14	8	5~6時間	下痢, 嘔吐, 胃痛, 吐気	カキ?	患者便(7), 従業員便(1) 拭き取り(6)	不明	
46	中	2/10	飲食店	2	2	?	下痢, 嘔吐	焼鳥	患者便(2), 従業員便(3) 拭き取り(3), 参考食品(1)	不明	
47	東	2/14	スーパー	3	3	4~8時間	下痢, 嘔吐	ハンバーガー	参考食品(1)	不明	
48	博	2/23	ジャワ, バリ島 (観光客)	11	不明		下痢, 発熱	現地バリ島の氷入り ジュース	患者便(1)	不明	病院の検査ではNAG ビブリオ, エロモナス, プレシオモナスの3菌 種を検出
49	早	3/8	旅館	不明	30<	不明	嘔吐, 下痢, 腹痛	旅館の食事 (生カキを提供)	患者便(1)	不明	施設は県外
50	博	3/10	ホテル	不明	1	5~6時間	下痢, 発熱, 嘔吐	抹茶ケーキ	参考食品(1), 拭き取り(5)	不明	
51	西	3/22	飲食店	1	1	30分	アレルギー様 症状	握り寿司	患者便(1), 参考食品(4) 残品(1)	不明	
52	西	3/25	スーパー マーケット	1	1	3時間	下痢	エビ (ブラックタイガー)	患者便(1), 残品(1)	不明	

表7 平成5年度無症苦情検査結果

No	保健所	受付日	苦 情 品	状 況	結 果
1	東	10/29	カボスチョコレート	カビ様のものが発生	検体にはカビ(形態から接合菌類に類似)が発生し, さらにダニが体を埋没させた状態で付着していた。
2	博	11/15	イリコ	ネズミの糞の混入	乾燥したネズミの糞が混入していた。
3	博	1/5	あわせ味噌	体毛の混入	体毛が混入していた(E.coliは陰性)。
4	中	1/17	パン	青カビ様のものが付着	苦情の部分からは真菌類の発育は認められなかった。苦情の部分は加熱試験の結果から有機物ではないと考えられた。
5	早	3/22	豚のスペアリブ	異臭がする	一般細菌数の増加(10 <sup>7</sup> 以上/g)から初期腐敗と考えられた。一般細菌数は, <i>Pseudomonas putida</i> が主体であった。

## 2. ウイルス担当

平成5年度に実施した試験検査業務は、HIV（エイズ）抗体検査、風疹抗体検査、つつがむし病患者の血清検査、MMRワクチン接種後の無菌性髄膜炎におけるウイルス等の分離・同定、感染症サーベイランス事業のウイルス検査である。

また平成4年度より調査研究として、福岡市民の各種ウイルス抗体調査を開始し、その2年目として風疹、インフルエンザの2項目について引き続き実施した。各検査業務内容は以下のとおりである。

表1 ウイルス検査件数総括

区 分	依 頼 別		
	保健所	一般依頼	その他
HIV		2,736	
風疹		487	
つつがむし病	2		
MMRワクチン接種後の無菌性髄膜炎	2		
福岡市民の各種ウイルス抗体保有状況調査			764
感染症サーベイランス事業			121
総 計	4	3,223	885

### 1) HIV（エイズ）

昭和62年10月より保健所で受付した血清のHIV抗体検査を当所で実施している。今年度の件数は2,736件で昨年よりもやや減少した。平成5年9月よりHIV-2抗体の検査も併せてゼラチン凝集法（PA）にて開始している。

平成元年度からの年度別検査件数の推移を表2に示す。

表2 福岡市におけるHIV検査件数の推移

年度	平成元年	2	3	4	5
件数	174	483	837	3,387	2,736

### 2) 風 疹

昭和52年度より妊娠適齢期女性を対象とした風疹検査を保健所で受付後、当所でHI抗体を測定している。

平成5年度の当所における検査件数は487件で、前年度（469件）とほぼ同様な件数であった。平成元年度からの年度別検査件数の推移を表3に示すとともに抗体検査結果の詳細を表4に示した。

表3 福岡市における風疹検査件数の推移

年度	平成元年	2	3	4	5
件数	527	368	363	469	487

表4 年齢群別風疹HI抗体価

年齢群	H I 抗 体 価								
	<8	8	16	32	64	128	256	512≤	計
<20	2					2			4
20~24	7	1	6	10	16	4	3		47
25~29	27	12	26	49	56	44	8	2	224
30~34	58	7	18	28	34	18	8		171
35~39	9	2	3	1	10	6	3	1	35
40~44	2			3					5
45≤				1					1
計	105	22	53	92	116	74	22	3	487

### 3) インフルエンザ

平成5年度、当市におけるインフルエンザ様疾患の発生は、全国的な傾向と同様に極めて少なく、学校等における集団発生はなかった。しかし散発事例としてサーベイランス事業の検体の中でインフルエンザ様疾患として咽頭拭い液、うがい液等38検体が搬入され、MDCK細胞、ふ化鶏卵を用いたウイルス分離を実施した結果、B型が1名、A・H3型が3名より分離された。

### 4) 日本脳炎

今年度は当市における患者発生はなかった。

### 5) つつがむし

平成5年11月、市内で患者1名（66才、男性）が発生し、ペア血清を用いた蛍光抗体法（IFA）により検査したところ陽性であった。この患者は韓国済州島に旅行中、り患したと推定され、つつがむし病の海外輸入感染症として、珍しい症例であった。

各株におけるIFA価を表5に示した。

表5 つつがむし病患者蛍光抗体価（IgG）

採血月日	Kato	Karp	Gilliam	判 定
1993.11.12	20×	20×	10×	陽 性
11.19	160×	160×	160×	

### 6) MMRワクチン接種後の無菌性髄膜炎

市内及び市近郊で発生した2事例の患者髄液について行政依頼があった。ウイルス検査の結果1例よりムンプスウイルスが分離された。国立予防衛生研究所に送付して現在ワクチン株か否かを調査中である。

### 7) 調査研究

福岡市民の各種ウイルス抗体保有状況調査（風疹、イ

ンフルエンザ)

平成5年7月と9月に採血された、16才以上の福岡市民764名を対象に風疹を、605名を対象にインフルエンザの血清HI抗体調査を実施した。

(詳細は調査研究に記載)

8) 感染症サーベイランス事業

福岡県結核感染症サーベイランス事業の検査業務のうち、福岡市分(3病院4定点)を福岡県より移管され、平成4年度より開始した。平成5年度は小児科定点2と眼科定点1が増加し6病院7定点で実施した。

本年度は表6のとおり患者110名から121検体が搬入された。分離されたウイルスの内訳を疾患別でみるとヘルパンギーナからコクサッキーA8型(CA8)2株・コクサッキーB2型(CB2)1株、手足口病からエンテ

ロ71型(En71)3株・コクサッキーB2型1株、麻疹様疾患から麻疹、無菌性髄膜炎からエコー11型(E11)4株、乳児おう吐下痢症からアデノ2型(Ad2)2株・ロタウイルス様粒子(ROTA)10株、感染性胃腸炎からエコー11型・アデノ1型・ロタウイルス様粒子が各々1株、インフルエンザ様疾患からアデノ3型2株・インフルエンザB、1株・AH3、3株、陰部ヘルペスから単純ヘルペス1型(HSV1)3株・単純ヘルペス2型(HSV2)5株、流行性角結膜炎からアデノ2型・アデノ4型・単純ヘルペス1型各々1株であった。以上より本年度のサーベイランス分離ウイルスを総括すると無菌性髄膜炎ではE11、乳児おう吐下痢症及び感染性胃腸炎からは2月を中心にロタウイルス様粒子、インフルエンザはB型とA・H3型の2種類、手足口病からはEn71が主に検出された。

表6 ウイルス検査 平成5年度 結核・感染症サーベイランス検査結果

臨床診断名	患者数	検体名	検体数	陰性数	ウイルス分離状況											
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ヘルパンギーナ	4	咽頭ぬぐい液	4	1	CA8(2)*										CB2	
手足口病	4	咽頭ぬぐい液	2												En71(2) CB2	
		ふん便	2	1											En71	
麻疹様疾患	2	咽頭ぬぐい液	2	1											麻疹	
無菌性髄膜炎	10	咽頭ぬぐい液	1	1												
		髄液	9	7	E11		E11									
		ふん便	4	2	E11		E11									
脳・脊髄炎	2	咽頭ぬぐい液	1	1												
		鼻ぬぐい液	1	1												
		髄液	1	1												
乳児嘔吐下痢症	14	ふん便	14	2	ROTA Ad2					Ad2					ROTA(7)ROTA(2)	
感染性胃腸炎	6	咽頭ぬぐい液	1	1												
		ふん便	5	3											E11 ROTA Ad1	
インフルエンザ様疾患	38	咽頭ぬぐい液	10	10												
		咽頭うがい液	29	23											Ad3 Ad3 AH3(2) AH3 B	
		気管吸引物	1	1												
		ふん便	1	1												
陰部ヘルペス	15	陰部尿道	13	8	HSV2(2)		HSV1					HSV2				
		頸管擦過物			HSV1											
		皮膚病巣	2							HSV2		HSV2				
流行性角結膜炎	6	結膜ぬぐい液	6	3	Ad4		HSV1					Ad2				
急性出血性結膜炎	1	結膜ぬぐい液	1	1												
その他の疾患	8	咽頭ぬぐい液	5	5												
		髄液	2	2												
		ふん便	2	2												
		心のう液	1	1												
		気管吸引物	1	1												
合計	110		121	80	3	7	3	-	1	1	3	3	1	16	5	

\*: 陽性検体数(1検体の場合は省略)



### 3. 臨床検査係

臨床検査係が平成5年度に実施した試験検査業務は腸内細菌検査、赤痢アメーバ等の原虫検査、梅毒等血清検査、結核菌検査、井戸水等飲料水細菌検査、ダニ等の衛生害虫検査及び保健所外来検査（出向）である。試験検査業務と検査件数を表1に示した。以下事項別に述べる。

#### 1) 腸内細菌検査

腸内細菌検査は43,464件で内訳は、健康診断等の一般依頼2,732件、食品取扱に従事者を対象にした勤奨検便40,014件、赤痢、チフス等の防疫検便685件、その他19件であった。表2に検出サルモネラの血清型別、表3に微生物検出状況を示す。

検体は主に変法Amie培地（シンテック トランシステム）に採取した便で実施、検体搬入時に原因が特定されている事例ではその菌種を対象として行い、疑似の症例及び海外旅行者では食中毒菌を含めた腸管系病原菌を対象として実施した。

実施した685件のうち、経過者検便25件を除いた34事例660件の概要と検査結果を表4に示した。34事例のうち福岡市内で真性疾患が発生したのは15事例で、内訳は細菌性赤痢10事例（*S.sonnei* 5事例、*S.flexneri* 1b および2a各2事例 同2b1事例）、腸チフス3事例、パラチフス及びコレラ各1事例であった。コレラ事例は、当初海外旅行者下痢症として検査依頼があり、当所で検

表1 検査件数総括表

区分	計	保健所	
		依頼	行政
計	57,427	56,472	955
細菌・血清			
小計	48,867	47,912	955
腸内細菌	43,431	42,746	685
その他の細菌	19		19
結核菌	39		39
原虫（赤痢アメーバ）	33		33
衛生害虫（ダニ）	61		61
梅毒血清反応	641	523	118
飲料水細菌検査	4,643	4,643	
保健所検査			
小計	8,560	8,560	
尿			
一般検査	7,358	7,358	
沈渣	123	123	
便			
寄生虫	79	79	
潜血反応			
血液			
血球計算	321	321	
血色素	404	404	
ABO式血液型	214	214	
RH式血液型	61	61	

査したところコレラ菌（エルトール小川型）およびETECが検出された、また各事例とも散発的に発生しており、病院内および家族内でそれぞれ真性患者2名の赤痢事例があったものの、大規模な集団発生みられなかった。

残る19事例の内訳は疑似赤痢が1事例、福岡市外で発生した伝染病の接触者（海外旅行同行者を含む）が8事例、コレラ汚染地域（フィリピン）からの渡航者1事例、海外旅行者下痢症が9事例であった。

届出のあった腸チフス菌4株、パラチフス菌のファージ型別を依頼した結果は、腸チフス菌それぞれE2, D1, B1, M1型パラチフス菌6型であった。

表2 サルモネラの血清型別

血清型	依頼検査	行政検査	同定依頼	計
02 a:- S.ParatyphiA			1	1
04 eh:1,7 S.Kaapstad		1(1)		1(1)
eh:en,z <sub>15</sub> S.Sandiego	1		1	2
fg:- S.Derby		1(1)		1(1)
fgs:- S.Atona	2		1	3
i:1,2 S.Typhimurium4			3	7
07 b:1,w S.Ohio			1	1
d:1,5 S.Isangi	1	1(1)		2(1)
K:1,5 S.Thompson	4		1	5
r:1,2 S.Virchow			1	1
r:1,5 S.Infantis	4		3	7
z <sub>10</sub> :en,z <sub>15</sub> S.Mbandaka			1	1
z <sub>23</sub> :- S.Tennessee	2			2
08 eh:1,2 S.Bardo			1	1
eh:1,2 S.Newport	1			1
z <sub>10</sub> :en,x S.Istanbul	1			1
z <sub>4</sub> ,z <sub>23</sub> :- S.不明	1		1	2
09 d:- S.Typhi			4	4
gm:- S.Enteritidis	14*	1(1)	4	19(1)
l,z <sub>15</sub> :1,7 S.Miyazaki	1			1
fg:- S.不明	1			1
03,10 eh:1,6 S.Anatum		1(1)		1
01,3,19 eh:1,6 S.Senftenberg	1			1
013 z:l,w S.Worthington	1			1
035 z <sub>4</sub> ,z <sub>23</sub> :- S.Alachua	1		1	2

( ) 海外旅行者再掲、\*は同一人より2回検出を含む

表3 平成5年度の腸内病原微生物検出状況

区 分	検査件数	陽性件数	コレラ	サルモネラ									カンピロバクター	ETEC	EPEC
				04	07	08	09	03,10	01,3,19	013	035				
総 計	43,464	64(24)	1(1)	9(2)	12(1)	3	17(1)	1(1)	1	1	1	3(3)	9(9)	10(10)	
依 頼	小 計	42,746	40		7	11	3	16*		1	1	1			
	一 般 勸 奨	2,732	2		1							1			
政 行	小 計	718(131)	24(24)	1(1)	2(2)	1(1)		1(1)	1(1)			3(3)	9(9)	10(10)	
	コ レ ラ	9(2)	2(2)	1(1)									1(1)	1(1)	
	チ フ ス	208													
	パ ラ チ フ ス	1													
	赤 痢	387(46)	10(10)									2(2)	2(2)	7(7)	
	海 外 旅 行 者 経 過 者	83(83)	12(12)		2(2)	1(1)		1(1)				1(1)	6(6)	2(2)	
	30														

( ) 海外旅行者再掲, \*は同一人より2回検出を含む

表4 行政依頼検査概要

受付日	区 分	概 要	検 査 結 果
1993. 4. 5	真性赤痢	早良区の34歳の女性が3月20日から4月2日までのタイツアーに参加し、4月1日より水様下痢があるため帰国時に検査、 <i>S.sonnei</i> が検出された。	家族1名(-) 同行者3名(-)
4. 7	腸チフス	東区に勤務する49歳の男性が2月2日から8日までインドネシアに旅行し、25日より39℃の発熱があり近医にてインフルエンザの診断、投薬を受けた。3月3日から5日まで総合病院に入院、3月24日別の総合病院受診、胃透視後下剤を服用したところ下痢(血便)高熱、脱水のためショック状態となった。4月1日さらに別の総合病院に入院し血液培養を実施。5日 <i>S.Typhi</i> が検出された。	同僚14名のべ27件(-)
6. 4	真性赤痢	心筋梗塞で博多区の総合病院に入院中の66歳の女性が5月31日発熱、下痢で発症、6月4日 <i>S.sonnei</i> が検出された。直ちに病院内接触者(患者、職員)患者家族、見舞い客等を当所にて検査したが、菌は検出されなかった。9日になって2名の患者(4日検査済)が血便を呈し、病院(検査センター)で検査中との情報を得た。11日2名の内1名から同菌が検出され、この患者は感染症センターに収容された。	患者家族、見舞い客等のべ12件(-) 病院内接触者(入院患者、職員等)のべ177件(-)
6.11	赤痢疑い(海外旅行者)	中央区の男性が5月31日から6月7日まで、インドネシア(ジャカルタ、バリ)に旅行し、5日頃から下痢気味、8日下痢が激しくなり、市販の薬を服用した。11日近医受診し、保健所に行くよう指示された。	本人(-)
6.14	真性コレラ	東区の64歳の男性が6月3日から14日までインドネシア、シンガポールに旅行、8日水様下痢があり11日再び様下痢出現であった。14日現在も続いているため保健所に相談、当所で検査したところ16日コレラ菌が検出された。	本人よりエルトル小川型コレラ菌およびETEC(025,H42,ST+)検出 患者家族2名のべ4件(-) 同乗者1名よりEPEC(01,H7)検出
7. 8	真性赤痢	海外旅行歴のない北九州市の37歳の男性が7月3日東区に里帰り中発症、7日 <i>S.sonnei</i> が検出された。	接触者3名(-)
7. 9	真性赤痢	海外旅行歴のない南区の44歳と17歳の母娘が7月6日から下痢、発熱があり、母親は同日入院した。娘は7日大学病院受診し検便。9日娘から <i>S.sonnei</i> が検出され、母も疑似赤痢の診断で両名とも感染症センターに収容された。後日感染症センターにて母からも同菌が検出された。	患者家族2名(-) 娘の同級生等49名(-) 母の同僚6名(-)
7.19	腸チフス	粕屋郡の82歳の女性が7月13日から腹部症状があり、近医に通院していたが、16日博多区の病院に入院、急性化膿性胆嚢炎の診断で穿刺排膿。19日胆汁より <i>S.Typhi</i> が検出された。	病院職員25名(-) 同室患者5名(-)

受付日	区分	概 要	検 査 結 果
1993. 8. 3	真性赤痢	7月24日から31日のタイツアーに参加した川崎市の24歳の女性から <i>S.sonnei</i> が検出されたとの連絡	同行者1名(-)
8. 3	真性赤痢	7月22日から28日のマレーシア、シンガポールツアーに参加した横浜市の48歳の女性から <i>S.flexneri 1b</i> が検出されたとの連絡.	同行者1名(-)
8.16	赤痢疑い (海外旅行者)	西区の男性が8月14日から15日まで韓国に旅行し、下痢があるため保健所に相談.	本人よりサルモネラ07群 ( <i>S.Isangi</i> ) 検出
9. 3	パラチフス	大阪府の25歳の男性が6月19日から8月31日までタイ、マレーシア、インドネシア、ネパール、中国に旅行、8月22日中国で発熱、帰国後、福岡空港から直接博多区の病院に救急車で入院。9月1日感染症センターに転院、2日血清学的にパラチフスの診断3日血液より <i>S.Paratyphi A</i> が検出された.	接触者1名(-)
9. 9	赤痢疑い (海外旅行者)	東区の20歳の男性が7月11日から9月8日までインド、ネパール、タイに旅行、現地で1カ月くらい下痢が続き一時よくなったが、2週間ほど前から再び軟便となり保健所に相談.	本人からサルモネラ04群 ( <i>S.Derby</i> ) およびカンピロバクター検出
9.16	赤痢疑い (海外旅行者)	博多区の女性(2名)が9月6日から11日までインドネシア、シンガポールに旅行、1名が15日から水様下痢のため保健所に相談.	海外旅行者2名(-)
9.29	赤痢疑い (海外旅行者)	城南区の高校の生徒が9月20から23日まで韓国に修学旅行に行き、多数の生徒が下痢、腹痛など消化器症状を訴え、数名が医療機関受診.	海外旅行者72名中 1名からサルモネラ04群 ( <i>S.Kaapstad</i> ) 2名からETEC (06,H16,ST+LT+) 1名からETEC (0169,H41,ST+) 1名からEPEC (0126,H27) 1名からEPEC (044,H18)をそれぞれ検出 66名(-)
10.21	赤痢疑い (海外旅行者)	中央区の女性が10月16日から19日まで香港、マカオに旅行、19日より頭痛、発熱、20日下痢が始まり保健所に相談.	本人からサルモネラ09群 ( <i>S.Enteritidis</i> ) 検出
11. 1	疑似赤痢	南区の20歳の女性が10月30日より発熱、水様下痢があり31日急患センター受診、疑似赤痢の診断で感染症センターに収容.	患者家族3名(-)
11. 8	真性赤痢	城南区の41歳の男性が10月28日から11月5日までシンガポール、インドネシアに旅行、4日発症5日水様下痢のため近医受診、7日 <i>S.sonnei</i> 検出.	患者家族2名(-) 同行者1名(-) 一部同行者4名(-)
11.10	真性赤痢	早良区の45歳の女性が10月22日から27日までの中国ツアーに参加、25日より下痢(粘血便)発熱、倦怠感あり、27日近医受診、投薬を受ける。29日大学病院受診、潰瘍性大腸炎の疑いで、30日総合病院に入院、11月5日大学病院に転院、6日に検便、組織検査、9日 <i>S.flexneri 2a</i> が検出された.	患者家族2名(-) 同行者1名(-) 接触者1名(-)
11.11	赤痢疑い (海外旅行者)	中央区の男性が10月31日から11月4日までインドネシア(バリ島)ツアーに参加、5日より下痢、倦怠感があり、11日現在も下痢が続いているため相談	本人よりETEC(SeroUT,ST+LT+) 検出
11.22	真性赤痢	三濤郡の25歳の女性が10月31日から11月10日までインドに旅行、帰国時の検便で <i>S.sonnei</i> 検出.	同行者1名(-)
11.29	コレラ疑い (海外渡航者)	コレラ汚染地域(フィリピン)からの渡航者検査依頼.	海外渡航者2名(-)
12.17	真性赤痢	東区の海外旅行歴の無い56歳の男性が12月9日発症、11日受診し検便。17日 <i>S.flexneri 2a</i> 検出.	患者家族2名(-)
12.27	真性チフス	西区の海外旅行歴の無い42歳の女性が12月10日から発熱があり、13日より近医にて通院治療を受けていたが、18日発熱増強し、右下腹部痛出現。19日別の総合病院にて急性虫垂炎の疑いで手術、小腸穿孔があり回腸切除。25日術中の便より <i>S.Typhi</i> が検出された.	患者家族4名(-)
1994. 1.13	真性チフス	春日市で発生した腸チフス患者接触者の検査依頼	接触者1名(-)

受付日	区分	概 要	検 査 結 果
1994. 2. 16	真性赤痢	早良区の29歳の女性が2月6日から10日までのバリ島ツアーに参加し、10日夕方より下痢があり、11日38.5℃の発熱、粘血便、テネスマスが出現、14日近医受診し16日 <i>S. sonnei</i> が検出された。	同行者20名中 2名からEPEC (0111,HUT), 1名からカンピロバクター およびEPEC (0127,H21) 1名からETEC (SeroUT,LT+) およびEPEC (0166,HUT) 1名からETEC (0169,H41,LT+) 1名からEPEC (0127a,HUT) 1名からカンピロバクターをそれぞれ検出13名(-) 患者家族3名のべ5件(-)
2. 17	真性赤痢	大分県の64歳の女性が、2月10日から13日までのフィリピンツアーに参加。13日夜発症し、14日夕方下痢、腹痛、発熱、脱水症状で入院。17日 <i>S. dysenteriae</i> 2が検出された。	同行者5名中1名からEPEC (0166,HUT) 検出 4名(-)
3. 2	真性チフス	東区の33歳の男性が2月7日より下痢が続くため、9日総合病院受診し抗生剤を投与されたが服用しなかった。11日別の総合病院受診し下痢止めと整腸剤を投与され、その後下痢は治まった。21日より発熱、24日再び下痢が始まり、25日大学病院受診。検便と大腸ファイバー検査実施。26日別の外科病院に入院した。3月2日大学病院で、便(25日分)から <i>S. Typhi</i> が検出された。	患者家族2名のべ4件(-) 同僚46名のべ92件(-) 病院内接触者50名(-)
3. 7	真性赤痢	西区の24歳の男性が2月3日から3月2日までスリランカに旅行。2月28日激しい下痢で発症、続いて発熱、腹痛が出現した。3月3日感染症センター受診、7日 <i>S. flexneri</i> 1bが検出された。	患者家族2名(-)
3. 18	赤痢疑い (海外旅行者)	東区の23歳の男性が3月11日から14日までタイに、15日から16日まで香港に旅行。14日より水様下痢が1日5~6回続いている。	本人からETEC (06,H16,ST+LT+)
3. 22	真性コレラ	インドネシア(バリ島)旅行後発生したコレラの接触者の検査依頼。	接触者3名(-)
3. 24	真性赤痢	西区の58歳の女性が3月19日下痢で発症、20日血便となったため受診、21日39℃の発熱があり入院した。22日検便と大腸ファイバー検査実施、24日ファイバーで採取した腸粘膜から <i>S. flexneri</i> 1bが検出された。	患者家族3名(-) 同僚43名(-)
3. 28	赤痢疑い (海外旅行者)	東区の男性が3月18日から27日までインドネシアに旅行、川で泳いだりした。27日より1日2回水様下痢がある。	本人からETEC (SeroUT,ST+LT+) 検出
3. 29	真性赤痢	博多区の30歳の女性が3月4日から18日までインド、タイ、ネパールに旅行。16日ネパールにて腹痛、下痢がはじまり、帰国後自宅で臥床、22日受診、28日 <i>S. flexneri</i> 2bが検出された。	同行者8名中 1名からサルモネラ03,10群( <i>S. Anatum</i> ) 1名からEPEC (0128,HUT)を検出 6名(-)

表5 アメーバ赤痢検査概要

受付日	区分	概 要	検 査 結 果
1993. 5. 27	真性赤痢 (アメーバ)	南区の29歳の男性が'89年7月頃から下痢、下血が続くため、'92年秋頃から'93年5月6日まで、近医に通院していた。5月8日大学病院受診、20日入院、26日便鏡検でアメーバ赤痢と診断された。	家族2名(-) 同僚5名(-) 接触者9名(-)
11. 1	真性赤痢 (アメーバ)	中央区の40歳の男性が、10月18日より血便と軽い下痢、腹痛があるため23日外科医院受診、28日病理診断でアメーバ赤痢と確定。	患者同僚9名(-) その他の接触者1名(-)
1994. 1. 19	真性赤痢 (アメーバ)	神戸市の学生が'93年10月20日から'94年1月7日まで中国、パキスタン、インド、イランに旅行。12月15日頃発症し、1月8日受診、17日アメーバ赤痢と診断された。患者は1月11日から15日まで、福岡市内の実家に帰省していたため接触者の検査依頼。	接触者2名(-)

## 2) 赤痢アメーバ検査

赤痢アメーバ症は年々増加していたが、本年度は3事例の届出に留まった。アメーバ赤痢検査の場合は排泄便を用いた。

赤痢アメーバ症には肝臓瘍をとまなう重症な事例が多いが、本年度届出があった3事例とも腸アメーバであった。

なお、33名の接触者検便を行ったが赤痢アメーバは検出されなかった。表5に概要を示す。

## 3) 梅毒検査

梅毒血清反応は641件の検査を実施した。その内訳は一般依頼523件、行政依頼は婚姻114件、医療扶助4件であった

検査法はTPHA法、ガラス板法、及び凝集法を同時に実施し、必要に応じてFTA-ABS法を実施した。

陽性者は高齢層に多く、陽性件数15件中9件は60才以上であった。

## 4) 結核菌検査

7保健所より依頼のあった37件の結核菌検査を実施した塗抹検査での陽性はなかったが、培養検査で1株の人型結核菌を分離した。また、非定型抗酸菌も3株分離した。

## 5) 飲料水の細菌検査

飲料水の検査は、井戸水2,964件、浄水1,619件、その他60件であり、井戸水の依頼検査では一般家庭とボーリング業者からの依頼及び下水工事のための事前調査等の依頼で浄水の依頼検査は主として「建築物における衛生の確保に関する法律」に基づくものである。

## 6) 衛生害虫検査

平成5年度の衛生害虫の検査依頼として、61件の検体提出があった。その多くは昨年度と同様に、市内各保健所に寄せられた苦情相談であったが、今回は調査目的として、未入居住宅でありかつ未使用の畳に生息するダニの種と数を検査するために数件の検体が提出されている。また、各保健所に於いて開催されている“健康フェア”等における市民啓発の一環として、数件の検体提出があった。

各保健所別の検体提出数、及び目的別検体提出数は、表6、表7のとおりである。

表6 保健所検査依頼状況

	東	博多	中央	南	城南	早良	西
検体数(フィルター)	7	8	3	0	36	2	0
家屋数	3	4	2	0	20	2	0
フィルター/1家屋	2.3	2.0	1.5	0	1.8	1	0

表7 検体依頼状況

	苦情相談	調査目的	健康フェア
検体数(フィルター)	38	12	11
家屋数	18	9	4
フィルター/1家屋	2.1	1.3	2.8

この様に、今年度提出のあった検体は苦情相談以外のものを含むため、昨年度と比較すると、その検査結果に幾分か相違が生じているが、それぞれの目的別に整理して検査結果を眺めてみると認識を新たにする面がある。その一面をチリダニ科に属するダニ類について見てみると、例えば未入居であり且つ未使用である畳と、苦情相談として提出された畳の検体との結果を比較すると、前者に於いては必ずと言ってよいほどホコリダニ科が優位を占めている。検出率に於いては常にトップであるチリダニ科に属する種類は全く見られないか、また見られたとしてもその数は非常に少ない。このことはチリダニ科に属する種類のダニ類は、人がいないと生息し得ない、と言えるのかもしれない。また、“健康フェア”の一環として提出された検体については、直接的な被害を被っているわけではないに関わらず、そこに存在するチリダニ科のダニ類の数が非常に多い検体がある。このことは、同じダニに対する個々人の反応の差が非常に大きいと言える。このことは、その他のダニ類についても同様であろう。上記はチリダニ科のダニ類についてその相違を述べたものであるが、その他のダニ類を要因としても、或いはダニ以外を要因としても、その新たな一面を見出し得るかもしれない。

結果の表示については、多種類のダニが出現した検体については、その種類の数と、有意であると思われる何種類かのダニについて種名、及び数を記した。

表8に概要を示す。

## 7) 保健所外来検査

7保健所へ一般健康診断のために出向し、1名で尿、血液検査等を実施し、件数は8,560件であった。

表8 ダニ検査概要

採取年月日	依頼人の環境	件数	検体別概要	結 果			
1993. 5.28	築後20年以上木造集合住宅2階建て住居は1階 家族数1人 ベットはいない。 主訴は虫刺され。 採取場所は、何れも日当たりが悪く湿度は高い。	5	1：敷きフツンの上部	ヤケヒョウヒダニ 23exs カザリヒワダニ 1exs	ホコリダニ科 11exs 中気門亜目 1exs		
			2：寝具用マット	ヤケヒョウヒダニ 69exs ミナミツメダニ 4exs	ホコリダニ科 133exs イエマルニクダニ 3exs		
			3：和室（寝室の敷物）	6種類のダニを確認 ミナミツメダニ 5exs	ヤケヒョウヒダニ 55exs ホコリダニ科 19exs		
			4：和室（居間の畳）	10種類のダニを確認 ミナミツメダニ 3exs	ヤケヒョウヒダニ 45exs フトツメダニ 1exs		
			5：和室（寝室の畳）	11種類のダニを確認 ハリクチダニ科 2exs	フトツメダニ 3exs コナヒョウヒダニ 23exs		
6.22	築後13年木造一戸建て 家族数2人 室外で犬を1匹飼っている。 遊びに来る孫に、アレルギーが起こる。 何れの採取場所も日当たりはよく、湿度は少ない。	3	1：洋室居間（敷物）	コナヒョウヒダニのみ 86exs			
			2：洋室寝室（敷物）	コナヒョウヒダニのみ 52exs			
			3：洋室事務所（敷物）	コナヒョウヒダニ 102exs ミナミツメダニ 1exs			
7. 1	築後15年鉄骨集合住宅4階建て住居4階 家族数1人 ベットはいない。 主訴は手足を刺される。 部屋の向きはそれぞれ異なるが、何れのへやも日当たりはよく、湿度は普通。	3	1：和室居間（畳）	チリダニ科の他6種類のダニを検出したが何れも数は少なく、特記すべきものはない			
			2：和室寝室（畳）	上 記 と 同 じ			
			3：和室居間（畳）	5種類のダニを確認 ケナガコナダニ 6exs	コナヒョウヒダニ 32exs ホソツメダニ 1exs		
8. 4	築後17年鉄骨集合住宅5階建て住居は3階 家族数4人 ベットはいない 乳児がアトピー性皮膚炎 医師よりダニが原因と指摘される。	2	1：和室寝室（畳） 部屋は北向き日当たり悪く湿度は普通。	7種類のダニを確認 ホコリダニ科 21exs テングダニ科 1exs	ヤケヒョウヒダニ 105exs ケナガコナダニ 3exs カザリヒワダニ 4exs		
			2：和室居間（畳） 部屋は南向き日当たり良く湿度は普通。	ヤケヒョウヒダニ 13exs ケナガコナダニ 1exs 中気門亜目 3exs	コナヒョウヒダニ 14exs イエササラダニ 1exs		
8.16	築後18年木造一戸建て 家族数3人 ベットはいない 夫婦共に全身に虫刺されがある。 何れの採取場所も日当たりはよく、湿度は少ない。 詳細を事例報告に掲載。	2	1：和室寝室（畳）	10種類のダニを確認 ホソツメダニ 15exs	ミジンイレコダニ 1382exs イエマルニクダニ 63exs		
			2：和室客間（畳）	10種類のダニを確認 ミジンイレコダニ 58exs ケナガコナダニ 25exs	ホソツメダニ 1exs イエマルニクダニ 4exs		
8.16	築後1年鉄骨集合住宅8階建て住居は8階 家族数3人 ベットはいない 夫婦共に全身に虫刺され。子供（中学生）に被害は無い。 何れの採取場所も日当たりはよく、湿度は少ない。	2	1：和室寝室（畳）	6種類のダニを確認 ヤケヒョウヒダニ 30exs ケナガコナダニ 70exs	ミナミツメダニ 520exs コナヒョウヒダニ 30exs イエササラダニ 40exs		
			2：洋室居間（ソファー）	コナヒョウヒダニ 25exs 上記2種のみ	ケナガコナダニ 30exs		
8.23	築後6年鉄骨集合住宅4階建て住居は4階 家族数2人 ハムスターを2匹室内で飼っている。 和室でダニらしきものに咬まれる。 室内は南向きで、日当たりはよく湿度は普通	2	1：和室寝室（畳）	9種類のダニを確認 ホコリダニ科 21exs	ミナミツメダニ 178exs イエササラダニ 30exs		
			2：寝具（フツン）	ミナミツメダニ 60exs ホコリダニ科 13exs コナヒョウヒダニ 10exs	ケナガコナダニ 13exs ヤケヒョウヒダニ 10exs		
8.31	築後22年木造一戸建て 家族数5人 小学生以下が3人 ベットはいない。ダニがいるようだ、との苦情相談。	1	1：和室子供部屋（畳） 部屋は北向きで日当りは悪く湿度は普通。	12種類のダニを確認 希なダニとして	ホソツメダニ 11exs バイナプルヒメダニ 1exs ロビンネダニ 5exs		

採取年月日	依頼人の環境	件数	検体別概要	結 果		
1993. 9. 2	築後3年鉄骨集合住宅2階建て 住居は1階 家族数3人 小学生以下の子供が一人 ベットはいない、奥さんが被害を受けている 手足の被害が特に多い、	2	1：和室寝室（畳） 部屋は南向きで日当りは良く湿度は少ない、	10種類のダニを確認 ホソツメダニ 8exs ケナガコナダニ 2exs	ホコリダニ科 352exs ヤケヒョウヒダニ 54exs イエマルニクダニ 5exs	
			2：洋室居間（敷物） 部屋は南向きで日当りは良く湿度は少ない、	6種類のダニを確認 ホソツメダニ 8exs ケナガコナダニ 3exs	ホコリダニ科 73exs ヤケヒョウヒダニ 66exs イエマルニクダニ 3exs	
9. 2	築後3年鉄骨集合住宅2階建て 住宅は2階 家族数3人 小学生以下の子供が1人 ベットはいない、奥さんと子供が被害を受けている、刺された後が水ぶくれ状になる、	2	1：和室寝室（畳） 部屋は南向きで日当りは良く湿度は少ない、	7種類のダニを確認 ヤケヒョウヒダニ 51exs ケナガコナダニ 2exs	ホコリダニ科 188exs ホソツメダニ 4exs イエマルニクダニ 2exs	
			2：洋室居間（敷物） 部屋は南向きで日当りは良く湿度は少ない、	7種類のダニを確認 ホコリダニ科 25exs チリニクダニ 1exs	ヤケヒョウヒダニ 125exs ホソツメダニ 10exs イエマルニクダニ 1exs	
9. 9	築後30～40年木造一戸建て 家族数5人 小学生以下の子供が3人 室外で犬を1匹飼っている、 子供がダニアレルギー、	2	1：和室居間（畳） 部屋は北向きで日当りはよく湿度は普通、	7種類のダニを確認 ホコリダニ科 20exs カザリヒワダニ 2exs	ヤケヒョウヒダニ 88exs ケナガコナダニ 5exs 中気門亜目 2exs	
			2：和室寝室（畳） 部屋の向き日当たりとも明瞭ではない、湿度普通	7種類のダニを確認 アシナガツメダニ 2exs イエササラダニ 10exs	ヤケヒョウヒダニ 266exs ホコリダニ科 28exs カザリヒワダニ 2exs	
10. 6	築後2.5年鉄骨集合住宅4階建て 住居は3階、 未入居住宅の調査の為、窓には全て黒いシートがかけてある、 畳の表面が白く粉を噴いたようになっていた（9/7に畳表のみ交換）	2	1：和室（畳）	9種類のダニを確認 ミナミツメダニ 17exs ヤケヒョウヒダニ	ホコリダニ科 65exs イエハリクダニ 1exs コナヒョウヒダニは全く存在しない	
			2：和室（畳）	ホコリダニ科 26exs ヤケヒョウヒダニ	ミナミツメダニ 17exs コナヒョウヒダニは全く存在しない	
10. 12	新築の住宅、 未入居住宅における畳の調査の為採取、 採取場所全ての室内は黒いシートで覆ってある、 部屋は全て南向き、 1～6は木造一戸建て 7～8は鉄骨一戸建て 検体1, 2, 4は同じ製造会社 検体3, 5, 6 〃 検体7, 8 〃	8	1：和室（畳：防虫紙） H5.5.8製造	ホコリダニ科 695exs ケナガコナダニ 29exs イエササラダニ 1exs	フトツメダニ 2exs ヤケヒョウヒダニ 1exs ヒボプス 1exs	
			2：和室（上記と同じ畳）	上記と同じ傾向を示す		
			3：和室（畳：防虫紙） H5.9.1製造	ヤケヒョウヒダニ 2exs ホコリダニ科 4exs ヒサシダニ科 1exs	ケナガコナダニ 2exs カザリヒワダニ 6exs 中気門亜目 1exs	
			4：和室（畳：防虫紙） H5.9月製造	ホコリダニ科 198exs ヤケヒョウヒダニ 4exs フトツメダニ 6exs	ケナガコナダニ 166exs コナヒョウヒダニ 3exs ゴミウスケダニ 2exs	
			5：和室（畳：防虫紙） H5.9月製造	7種類のダニを確認 ホコリダニ科 32exs テングダニ科 1exs	カザリヒワダニ 1exs フトツメダニ 1exs 中気門亜目 2exs	
			7：和室（畳：化繊） 製造日不明	ヤケヒョウヒダニ 2exs コナヒョウヒダニ 2exs ホコリダニ科 4exs	ケナガコナダニ 2exs イエマルニクダニ 1exs 隠気門亜目 2exs	
			8：和室（畳：化繊） 製造日不明	ヤケヒョウヒダニ 2exs コナヒョウヒダニ 2exs イエマルニクダニ 3exs	ケナガコナダニ 4exs ホコリダニ科 17exs	
			12. 5	築後24年鉄骨集合住宅4階建て 住居は4階、ベットは飼っていない。家族数5人	1	1：洋室居間（敷物）
12. 14	築後15年木造一戸建て 家族数3人 ベットはいない、 H5.12.12に畳の入れ代をしている、	2	1：和室客間（畳） 部屋は南向き日当りは普通湿度は多い、	9種類のダニを確認特記すべきダニはない 隠気門亜目が優位 カザリヒワダニ 43exs	ミジンイレコダニ 26exs	
			2：和室客間（畳） （上記と同一場所）	上記と同じ 出現したダニ類に変化を認めない		
12. 15	築後11年鉄骨集合住宅10階建て 住居は3階、 家族数1人 ベットはいない、	1	1：洋室居間寝室（敷物） 部屋は南向き日当たりよく湿度は少ない、	コナヒョウヒダニ 25exs ツメダニ科 1exs	ケナガコナダニ 1exs イレコダニ科 2exs	

採取年月日	依頼人の環境	件数	検体別概要	結 果		
1993.12.22	築後20年木造一戸建て 家族数2人 ベットはいない、 薬をいくら使っても掃除の度に ダニがいて痒いとの苦情。何れ の採取場所も部屋の向きは不明 日当たり良く湿度は少ない。	2	1：和室寝室（畳と敷物）	ヤケヒョウヒダニ 10exs イエニクダニ 5exs コナヒョウヒダニ 15exs	ツメダニ科 ホコリダニ科 チリダニ科	5exs 35exs 80exs
			2：和室居間（畳）	7種類のダニを確認しているが特記すべきダニは確認 されない。		
1994.1.14	築後30年位の雑居ビル 地下1 階地上3階建て 採取場所は2 F 昼間は雀荘で夜は無人、 虫体そのものを、保健所に持参 している。 室内の向きは不明日当たりは悪 く湿度は多い。詳細を事例報告 に掲載。	2	1：トイレに向かう通路 の壁 (合板にクロス貼り)	ヤケヒョウヒダニ 7exs イエダニ 26exs 中気門亜目若虫 10exs	イエササラダニ ホコリダニ科 (イエダニ若虫と思われる)	2exs 2exs
			2：トイレに向かう通路 (板床)	ヤケヒョウヒダニ 6exs イエダニ 17exs 中気門亜目若虫 14exs	イエササラダニ ミナミツメダニ (イエダニ若虫と思われる)	2exs 1exs
1.19	築後4年調査時点では未入居 鉄骨集合住宅5階建て 住居は 4階。家族数2人 畳表を交換 したばかりである。 未入居住宅のため窓は黒いシー トで覆ってある。	2	1：和室（畳）	8種類のダニを確認 ミナミツメダニ 1exs ケナガコナダニ 4exs	ホコリダニ科 コナヒョウヒダニ フトツメダニ	27exs 2exs 1exs
			2：和室（畳）	上記と同じ傾向を示す。 ミナミツメダニ 1exs	ホコリダニ科 ケナガコナダニ	23exs 4exs
2.14	築後33年木造一戸建て 家族数2人 ベットはいない “暮らしのステップアップセミ ナー”参加者。	2	1：和室居間（畳） 部屋は南向き日当 たりは良く湿度は普通。	10種類のダニを確認 ヤケヒョウヒダニ 83exs マメタンツメダニ 4exs	チリダニ科優位に出現 コナヒョウヒダニ イエハラクチダニ	67exs 1exs
			2：洋室寝室（敷物） 部屋は南向き日当 たりは普通湿度も普通。	上記と同じ傾向を示す。 ヤケヒョウヒダニ 112exs ミナミツメダニ 3exs	コナヒョウヒダニ フトツメダニ	48exs 2exs
2.14	築後13年木造一戸建て 家族数2人 ベットはいない “暮らしのステップアップセミ ナー”参加者。	5	1：和室客間（敷物） 部屋は南向き日当 たりは普通湿度も普通。	ヤケヒョウヒダニ 58exs フトツメダニ 1exs ホコリダニ科 2exs	コナヒョウヒダニ マメタンツメダニ	16exs 2exs
			2：和室寝室（敷布団） 部屋は南向き日当 たりは普通湿度も普通。	ヤケヒョウヒダニ 107exs ハダニ科 1exs	コナヒョウヒダニ	7exs
			3：洋室子供（敷布団） 部屋は南向き日当 たりは普通湿度も普通。	ヤケヒョウヒダニ 50exs ケナガコナダニ 2exs	コナヒョウヒダニ ホコリダニ科	12exs 6exs
			4：和室寝室 (羽毛掛布団) 部屋は南向き日当 たりは普通湿度も普通。	10種類のダニを確認 ヤケヒョウヒダニ 86exs ホソツメダニ 2exs ハトフタオモウダニ 1exs	チリダニ科優位 コナヒョウヒダニ マメタンツメダニ	12exs 1exs
			5：和室寝室（掛布団） 部屋は南向き日当 たりは普通湿度も普通。	チリダニ科優位に出現 ヤケヒョウヒダニ 110exs ホコリダニ科 3exs	コナヒョウヒダニ	75exs
2.14	築後12年木造一戸建て 家族数4人 ベットはいない “暮らしのステップアップセミ ナー”参加者。	3	1：和室寝室（畳） 部屋は南向き日当 たりは良く湿度は少ない。	数種類のダニを確認 ヤケヒョウヒダニ 20exs フトツメダニ 1exs	コナヒョウヒダニ ホコリダニ科	8exs 74exs
			2：洋室子供室（敷物） 部屋は南向き日当 たりは良く湿度は少ない。	チリダニ科優位に出現 ヤケヒョウヒダニ 31exs イエマルニクダニ 1exs	コナヒョウヒダニ	20exs
			3：和室居間（畳） 部屋は南向き日当 たりは良く湿度は普通。	ヤケヒョウヒダニ 12exs ケナガコナダニ 2exs フトツメダニ 2exs カザリヒワダニ 22exs	コナヒョウヒダニ イエマルニクダニ イエササラダニ ホコリダニ科	10exs 5exs 4exs 6exs
2.14	築後6年木造一戸建て（公民館） “暮らしのステップアップセミ ナー”	1	1：和室集会場（畳） 部屋は南向き日当 たりは良く湿度は普通。	ヤケヒョウヒダニ 11exs イエマルニクダニ 1exs カザリヒワダニ 1exs	コナヒョウヒダニ イエササラダニ ホコリダニ科	10exs 1exs 1exs



採取年月日	依頼人の環境	件数	検体別概要	結 果
1994. 3. 2	築後4.3年木造一戸建て 家族数4人 室外で犬を一匹飼っ ている。 6～9月に虫刺されの被害にあ う。	2	1：和室客間（敷物） 部屋は南向き日当たり は良く湿度は少ない。	種及び数とも特記すべきダニはいない ヤケヒョウヒダニ 3exs コナヒョウヒダニ 1exs サヤアシクダニ 1exs イエササラダニ 1exs ホコリダニ科 8exs
			2：和室寝室（畳） 部屋は南向き日当たり は良く湿度は少ない。	ヤケヒョウヒダニ 3exs コナヒョウヒダニ 3exs ミナミツメダニ 11exs イエササラダニ 2exs ホコリダニ科 10exs
3. 2	築後20年鉄骨集合住宅4階建て 住居は1階 家族数2人 ペットなし ハウスダストによる蕁麻疹、ア レルギーがある。	2	1：和室居間（畳） 部屋は南向き日当た り湿度とも普通。	10種類のダニが出現 ホソツメダニ 1exs ミナミツメダニ 3exs Chelacaropsis.sp 2exs ホコリダニ科 173exs
			2：和室寝室 部屋は南向き日当た り湿度とも普通。	7種類のダニが出現 ヤケヒョウヒダニ 19exs コナヒョウヒダニ 27exs Chelacaropsis.sp 1exs チリダニ科優位